

Viva Kango

No.42

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1 TEL (0157) 66-3311 FAX (0157) 61-3125
mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

発行日/2015年8月31日
編集・発行/広報委員会



日本赤十字北海道看護大学

卒業生キャリアアップ 特集

横浜労災病院 救命救急病棟
看護師長補佐 村上 秀明

私は二〇一〇年六月のVivaKangoの記事を書かせていただきました。その時、DMAT隊員として美災害への派遣という事が一つの目標でした。二〇一一年三月十一日、東日本大震災が発生し、私は当日から派遣され茨城県・宮城県・岩手県と北上し活動してきました。今回はその時のDMAT活動とその後の私の活動について紹介したいと思います。



写真1

私が横浜労災病院に勤務し四年が経過、DMAT隊員となってちょうど一年経過した頃二〇一一年三月十一日を迎えました。横浜は震度五弱の揺れに襲われましたが、院内は通常通り業務ができる状態でした。私は準夜勤の勤務でしたが、すぐに病院へ行き当時の師長にDMAT派遣の可能性が高いため準備にかかりたい事を伝えました。病院救急車で神奈川県庁に向かい茨城への派遣が決定しました。派遣指示のあった水戸協同病院へは二十三時五十五分に到着し現状の把握をしました。医療継続困難な患者が約一五〇名おり、DMATの車中で近隣の医療機能が維持されている病院に搬送するという事が最初のミッションでした。患者のほとんどが救命医療は必要とせ

ず、患者の状態をチェックしながら状態変化に注意して搬送をしました。夜間の大規模患者搬送業務が三月十一日から十二日に行ったDMATとしての始めての活動でした。二〇一一年三月十四日・十五日、宮城県の石巻総合運動公園に派遣されました。沿岸にある石巻市民病院が医療を継続できず全患者を公園に避難させ、公園で医療を継続するというミッションでした。自衛隊ヘリやD・ヘリ等で病院から次々と公園に患者が搬送され、自衛隊が設置し

たテント内に担架を置き患者を次々と受け入れました(写真1:石巻総合運動公園での患者受け入れの様子)。ここでも救命医療を必要とする患者はおりませんでした。脳梗塞様の症状を呈している人を発見し、点滴をその場で実施したりしました。病院の寝衣にシート等で保温している患者に対して氷点下に近い気温の中でどのようにストープを配置し保温効果を高めるか、毛布をしっかりとかける事等、屋外で医療を継続する困難さを実感しました。また、一次的な野戦病院のような状況でしたが、実際の病院での医療環境はDが作成され誰がどこにいるのか電子カルテで把握できます。このような状況で患者一覧表の作成とどこに運ばれたのか記録を残す事もDMATに課せられた使命であると感じていました。実際に患者の家族が「ここに運ばれたって聞きました」と言い公園を訪れる方が多くいました(現地はインフラは衛星電話しかつながらない状況でした)。



写真3

二〇一一年三月十六日・十七日岩手県では県立宮古病院に派遣されました。宮古病院では近隣の病院が津波で被災し沿岸の病院の状況がようやく掴み始めており沿岸の病院からの患者搬送が必要な状況である事がわかりました。三月十六日の朝から患者搬送を始めました。津波で被災した県立山田病院に到着し、患者をスクープストレッチャーやバックボードと呼ばれる主に救急隊が使用する器具を用いて患者を搬送しました(写真2:県立山田病院での患者搬送の様子)。その後、当院の救急車に乗せて宮古病院まで搬送。患者の状態を確認した上で岩手県立沿宮内病院へ搬送しミッションを終えました(写真3:救急車内で患者に声をかけながらパルスオキシメーターで患者の状態をチェックしている様子)。



写真2

二〇二一年の活動では救命医療を行うつもりで万全の準備をして派遣に望みました。また、当時のDMAT隊員養成研修は救命医療を行うチームとして外傷対応を中心に教育を受けています。「これはDMATの仕事ではない」と感じたチームが複数いました。当時、正直私もそう感じていました。その後、知った事ですが福島県で適切な医療が継続されないまま、病院から避難場所へ搬送された患者が多数死亡している事が検証で明らかになっています。本来、搬送業務は消防の仕事です。しかし、あのような大

規模災害時に迅速に参集し転院先の病院の調整をし、車両で大規模転院搬送を安全に行えるのはDMATしかない事が明らかになりました。現在、日本DMATは災害急性期に迅速に救命医療を提供できるチームである他に、外傷だけではなく内因性疾患への対応、患者搬送業務、避難所への対応等、災害超急性期だけではなく医療救護班への引き継ぎまでシームレスな医療を提供する組織として位置づけられ教育が行われています。今回はこの活動を経て、現在に至るまでの経験をお伝えしようと思います。

「がん看護専門看護師までの道のり」

聖路加国際病院 がん看護専門看護師 今野 早苗

私がかん看護専門看護師を目指したのは、長い間がん患者さんのケアに携わる中で、多くの人々が「がん」に罹患したことで長期に渡り心と身体に苦しみを抱えながら生活をしなければならなく、もっと何かできないだろうかという日々ジレンマと自身の無力さを感じていたからです。

臨床に出て十年以上経過していた自分が再度学ぶことを決心したのは、並大抵の決意ではありませんでした。大学院へ入り、もう一度理論を深く学び病態や薬理学、治療についても

フが対応に難渋しているケースへ共に関わりロールモデルをとっています。その他に、専門看護師間で専門的なケアを提供するために新たなシステムの立ち上げに取り組んでいます。今、あらためて感じていることは、がん医療にはチーム医療が不可欠だということです。看護チームと医師、コメディカル、そして地域（在宅）のチームの調整を行い切れ目のないケアを提供できるよう其々の強

日本赤十字北海道看護大学大学院 がん看護ONSコース一期生 釧路労災病院 がん看護専門看護師 門脇 郁美

深く学びました。とりわけがん患者さんの心のケアの在り方を実践も含めて学んだことはとても大きな学びでした。大学院は、友人と支え合い、多くの先生や事務の方など沢山の人の支えがあって無事に終了することができました。

現在は、聖路加国際病院でがん看護専門看護師として働いています。聖路加国際病院には既に四人の専門看護師があり、外来を中心に活動しています。私は、病棟配属となり、入院患者さんを中心に、特にスタッ

みを強化し、弱いところは互いに補えるように広く柔軟性のある視野を持ちチームの舵取りをすることが必要であると感じています。最後に、がん専門看護師を目指す皆さんへのメッセージとして、がん患者さんや家族が「がん」になっても幸せに過ごせるような日本にしましょう！専門看護師は変革者です！医療と介護の新たなシステム作りを共に目指しましょう！！

学生時代からターミナルケアやがん看護に興味があり、いずれは専門的な資格を取得したいと考えていました。入職後、内科と外科の病棟勤務を経験する中で、「どの病期においても患者さんとご家族にとって大切な時期であり、個別的で予測的視点をふまえた看護介入が必要であると実感し、がん看護専門看護師を志すようになりました。今までの看護を振り返り、がん看護を専門的に学び、今後の看護活動に活かしていきたいと考え、母校に新設された大学院コースへの進学を決意しました。所属施設の二コースと合致し、休職という形で進学でした。

大学院に入學したばかりの頃、当時の学長から「学ぶことを楽しんで」のお言葉をかけていただきました。しかし、その頃の私には楽しむ余裕はなく、がむしゃらに、無我夢中で駆け抜けた二年間でした。今振り返ると、自分の生涯の財産となる貴重な学びの時間となり、幸せな経験であったと実感しています。また、今まで出会った皆様のお力添えがあったからこそ今日の私があるのだと、感謝してもしきれない思いです。

大学院卒業後は所属施設に復職し、資格取得後は緩和ケア専従として横断的に活動しています。患者さんとご家族、地域で暮らす人々が、その

人らしく過ごすことができるように、そして、医療者がやりがいを感じながらイキイキと働くことができるように、様々な職種と協働して所属施設内だけでなく地域社会全体で取り組んでいきたいと思っています。資格取得やスキルアップのための進学を現実のものとするとき、その一歩はとても勇気のいることだと思います。しかし、自身の看護師としての歩みに、より意味深い実りをもたらす一歩であると感じています。



緩和ケアチームのカンファレンス風景 (左から2番目が門脇さん)

1学年基礎看護学実習I後のツイート

1年生

- 実際の看護の世界に関わりコミュニケーションの難しさを知り、先輩看護師のような優しい看護師になることができるようになりたい。
- 初めて看護師さんと接して、コミュニケーションの難しさ、対象を中心に考える難しさを知った。
- とにかく緊張した～(泣) 笑顔を作りすぎて表情筋が疲れた～。
- 座学では学ぶことのできないことが実際に見れて良かったです。
- 正直疲れた～!ケド意外と楽しかった。看護師のお仕事って大変だなあって実感(TへT)
- プロの体位変換を見て興奮した!!
- 今回、グループホーム実習で気づいたことがあります。私は認知症の方のコミュニケーションが好きです!施設好きです!
- 実習が終わって、とても大変で、とても疲れた。3年生からやっていたいけるかなあ～。
- 解らないことが沢山あった分、勉強して知っていきいたいということが増えた。看護の難しさを知る機会となった。
- 看護は思いやりややさしさだけでなく、一方で知識や技術だけでもできないと本当に実感しました。
- 普段の生活で話している様に話しても上手くいかない事ばかりだった。看護師という仕事の特殊性を感じた。
- 実際に会話をしてみても相手の気持ちを良く考えるようになったし、周りへの人当たりが良くなったと言われて、少しは成長できたのかなって思った。
- 不安と楽しみが両方あった(´・ω・´)自分の課題が沢山見つかったけど辛かったけど、患者さんや利用者さんとお話している間は楽しかった。自分のコミュニケーション能力の低さに気付かされた。
- 実習終わったよ～!ホントに看護師さん凄くなって尊敬するし、ホントにちゃんやらなきゃって思った。頑張る!実習に行く前は緊張した。でも現場の雰囲気を経験できたのは良かったと思う。
- 看護師ってやっぱり大変だなあ。4日間だけだけど、めっちゃ疲れた。
- 初めての实習はメンバーにも恵まれて、とても充実していた(´・ω・´)/
- 意識して人と接することがとても難しく感じた。普段のコミュニケーションの無意識さがわかった。
- 初めての实習で緊張もしたし、大変なこともあったが実際に病院で患者さんや看護師さんとの交流ができ、とても充実していた。
- 初の実習はかなり緊張してとても疲れたけど、それ以上に多くの事を学べたので充実したもになりました。
- 働いている人たちに迷惑が掛からないようにとか、何話そうかって考えるから精神的に疲れた(笑)
- 講義に比べ、演習の方が講義数が少ないため1つ1つの演習を大切にしたいと思う。初めての实習はとてもためになりました。
- 学んだことが多くて、レポートが大変でした。入居者の方や患者さん、看護師さんは本当に良い人ばかりだったので実習に臨みやすかったです。
- 人と話すのは好きです得意ですが、患者さん、利用者さんと会話する際、気を付けた方がよい所に違いがあり難しいと感じた。
- 会話が途中で切れてもとにかく笑顔でいようと必死だった。かえって変な顔になっていたかも…。
- 今回の実習で対象者との人間関係形成の難しさを感じた。今後の学習を通してコミュニケーション技術の向上をはかりたい。
- 先生、看護師さん、患者さん、携わった全ての人の協力で貴重な体験ができました。来年はもっと厳しくなるんだろうな…。忙しいけど気を引き締めて頑張ります!
- 発言や行動に気をつけていく分、人間性がモロに出るなーと、良くも悪くも感じられた。(´・ω・´)お疲れ様です。
- 自分の理想の看護師とのギャップを感じた。もう一度自身見つめ直したいと思います。
- 実習に行く前は不安な気持ちもありましたが、何とか話せると思いましたが、でも、実際に話してみたら全然話さずできなくてショックを受けました。
- 実習やっと終わったあ!! 解放感!! 記録とレポートがたくさん…(> <)
- 最初はとても大変そうで嫌だったけど、仲間のおかげで楽しかった。最後の先生の話を聞いて、今回の実習を忘れないようにしようと思った。
- 初めての实習。看護師の大変さを痛感した…。でも、看護師になりたいって思いが強くなった!
- 初めて会った人と長時間コミュニケーションをとるのは思ったより大変でした。
- 患者さんとの関わりがこんなにも難しいとは思わなかった。初めての实習だったので何があるのかドキドキだった。
- 実習を通してコミュニケーションの難しさを実感した。その中で自然とコミュニケーションをとっている看護師は凄いなって思った。
- 実習終わったよ～!! 大変だったけどほんとにメンバーに救われた(T-T)次はテストがんばるか。

- 患者さん、利用者さんと初めて関わって、授業でやっていた意味がわかった。
- 看護師や介護士の仕事は大変だと改めて再認識した。常に人間と関わる仕事なので、コミュニケーション力が大切だと感じた。
- 初めての实習で、座学で学んだことを十分に生かせなかった(泣)これから、コミュニケーション能力を高めたり、積極的に講義を受けていきたい。
- やりきったよ!一歩夢へと近づけたかな…。さあ、また頑張るぞ(> <)
- 患者さんや利用者さんとこんなにお話する機会は今までなかったので戸惑うことも多かったけれど、学べて良かったです。
- 改めて看護師さんになりたい!!って思った!! 人のために地域のために働けるようになりたいから4年間がんばるっ!
- 看護師の仕事風景を見たり、対象と実際にコミュニケーションをとることができてよかった(´・ω・´)
- 初めての实習は緊張してしまって、患者さんや利用者さんとコミュニケーションをとるのが難しかった。
- 基礎看護学実習。終了★ 何もかもが初めてで大変だったけど、とても充実した1週間でした。
- 実習でしかできないコミュニケーションの難しさを学べてよかったと思います。(´・ω・´)/
- 現場だと今までできていたものができなくなってパニックでした。(´・ω・´)コミュニケーション難しい…。
- 初めての实習でとても大変でした。たった4日間でヒューヒュー言っていて今後、大丈夫なのかという気持ちでいっぱいです。(泣)
- 4日間の実習で、初めてだということもあり緊張もしていたからが気疲れしました。でも、振り返ってみるとたくさん色々な話聞いて楽しかったです。
- 看護師が本当に辛い仕事であってもやりがいのある素晴らしい職業であると実感した。勉強頑張ろうと思った。
- 実習でしかできなかったです。ですが…実習中は普段以上に気を引き締めていたため、帰宅後のコンビニスイーツが至福の一時だった。
- 思ったよりコミュニケーションがとれた。利用者さんが笑顔になってくれて嬉しかった。
- 実習では看護師さんの姿、行動を見て学ぶことが多くあった。
- 初めての实習で緊張よりは楽しみだった。だけど実際に行ってみると、コミュニケーションも難しかったし、予想外のことが沢山あった。
- 気を遣いすぎて疲れた。だけど、授業で習ったことが生かされた!勉強になった!
- 看護師さんの働く場をみて良い刺激になった。歩くのが早かった。
- こんなナースになりたいと思った人を見つけた。
- 看護師は座る時間がほとんどなく立ちっぱなしということに気づきました!今後の課題は体力作りです…。
- 病院実習では自分の意識の甘さが身に染みてわかりました。予習すべきこと、患者との会話の発展のための知識がたくさん必要だった。
- 病院、看護師について、思っていたイメージが変わって目指すべき姿、目標が少しずつ明確になってきた気がする。
- 看護師の偉大さ!色々申し訳なさ!疲労の多さ!学ぶことの多さ!
- 実習が終わった後、初めて話す人と上手く話せるようになった気がする。
- 看護師のお仕事って大変!!
- 心が苦しい場面もあったけど、1年生のこの時期に様々な人と関わる体験ができてとても良かった(´・ω・´)/
- 施設実習は入居者さんと話せて楽しかった。でも、その後のレポートが地獄だった。
- 私は自分のコミュニケーション力の低さがわかったので、さらにコミュニケーション能力を高めます。
- コミュニケーションが改めて難しいものだと感じた。緊張せずに楽しくコミュニケーションができるようになりたい。
- コミュニケーションの難しさを再認識した。
- 人とのコミュニケーションをとることに自信があったけど、今回の実習でお年寄りや病気の人は難しいことを実感した。
- 対象との関わりの中で活用できるコミュニケーション技術を学べたので、実践の場で活かそうと思った。
- 自分の無力さを大きく痛感した。はたして本当に自分は看護師に向いているのかと、自信が持てなくなった。
- 普段、友達や家族と特に気にすることなくコミュニケーションをとれているが相手が変わるとこんなにも上手くできないものだと実感しました。
- 初めての实習が終わり失敗したことを含め楽しいと思える実習でした。失敗も経験に替え、2年生に向け頑張りたいです。
- 実習を通してコミュニケーションの多様性、看護の実践の様子を見学することでとてもためになりました。

▶ 後援会からのサポート

本学には、学生の保護者の皆様を中心となり構成されている「日本赤十字北海道看護大学後援会」という組織があり、大学行事やサークル活動、そして、実習や模擬試験にかかる経費の補助など、学生たちがより有意義な大学生活を送るためのサポートを行っていただいております。

日頃から学生たちに多くのご支援をいただいている後援会の皆様に感謝を申し上げますとともに、ご協力いただいております大学行事等の一部をご紹介します。

入学式

四月六日(月)、オホーツクブルーの青空のもと、看護学部看護学科一四名ならびに大学院看護学研究科十四名、合わせて二二八名を迎えて、本学の平成二十七年入学式が執り行われました。

河口てる子学長から「大学生として歩み始めるにあたり、自分のことを自分で行えるよう自立し、主体的な行動ができるよう成長してください」と新入生への激励がありました。ご来賓の皆さまからも温かいご祝辞をいただき、新入生の緊張した表情も次第にほぐれて、これからはじまる大学生活への期待と、看護の世界に踏み出したはじめの一步を感じているようでした。

新入生の皆様のご活躍に期待しております。



病院施設見学会

去る五月九日(土)、一年次「看護学入門」の一環として、北見赤十字病院施設見学会が実施されました。病院職員の方の丁寧な説明とともに、新築移転した病院の各部署や、最先端の医療機器などを見て回りました。特に屋外ヘリポートではドラマさながらの風景に、学生たちは歓喜の声をあげていました。見学会はグループワーク・発表会をおこない、体験での学びを深めました。

今回の見学会は、学生たちにとって看護職を目指す動機づけの高まりと同時に、これからの学びがよりイメージ化できることに繋がったようです。



第十七回 大学祭

六月二十日(土)、二十一日(日)に第十七回大学祭が開催されました。今年のテーマはGIVE ME LOVE、ハイタッチと題して、楽しみながら手と手を合わせて協力し、年に一度の大学祭を盛り上げよう、全力で楽しもうという思いを込めました。今年是一年生有志や大学事務局有志が積極的に出店をし、例年以上に熱い盛り上がりを見せました。学生だけでなく、市民の方々も楽しんでいただけるようにヘルスチエックや看護体験コーナー、アロマカフェも開いたり、小さな子供たちのために縁日を設けたりと、大勢の来客で賑わいました。また、同窓会事務局による在学生対象の現役看護師何でも相談や、OB有志による講演会開催、など盛りだくさんの内容となりました。

来年は今年以上の大学祭にしたいと思っております。皆様の又のご来場をお待ちしております。



災害看護学講義

七月三日に南極料理人の西村淳先生による災害看護学(第三学年)の講義・演習が行われました。電気・ガス・水道が使えない状況で美味しい食べ物を作り出す。これが今回のテーマです。昨年日赤サードビスから寄贈された炊き出しコンロ四台をフル稼働させて、白米をはじめ炊き込みごはん、蒸しパン、おしるこ等が「ハイゼックス」というビニール袋で次々と作り出されました。中にはオレンジジュースや三ツ矢サイダーで炊いたごはんも登場し、学生たちは西村先生の指導の下、万が一のときに使える食材探しができる学びを感じました。

